

封筒：消印 4.5.10

大阪府市外、阪急沿線、岡町寶通一丁目

宇井 縫蔵様

和歌山縣田辺町中屋敷町三六

南方熊楠

昭和四年五月十日 午後七時過ぎ

宇井縫蔵様

南方熊楠再拝

拝啓 今月上旬 御行幸に付き当縣の生物標本

等を 天覽に供する儀に付き、服部生物御研究室

主任より御内沙汰あり。又縣知事よりもしばしば当該

用掛りを派して打合せ有之。小生は当日の御説明者

をして貴下の紀州魚譜と紀州植物目録

を進献せしめんと欲す（或は小生よりぢぢぢさし上るかも

知れず）。小生手許にあるものは二書共小生の手にて書き入れ

杯なしあり。植物目録の方は本文が読めにくき程書き入

れしあり。故に差上るを憚かる。然し此二書共天覽を経

おくときは再板に都合よき故（天覽を経たりと廣告すること

を得る故、板元も大に歓迎し勇む也）、もし御望みならば

（又キレイなる本御手許に残りあらば）御郵送被下度候。

小生の素志はなるべく縣下生物学発達の径路履歴を

具して 聖徳に達したく、右の二書は尤もそれに必要なもの

なれば、得手勝手な座ざなり編成のにわか作りの目録よりは

十倍の御信用を得ることと存じ候。此の千歳マキ一遇の

機会を逸し、貴名を空しく埋め去るは惜き至極と存じ、

此事申上候。

標品等は十五日しめきりなり。然し小生は貴著右の

二種は理由を特別に附して、当日御成りの場所に

第一に陳列し、又小生なり誰人なり御説明の第一に

短かく本縣生物学の歴史を述るとき、貴名と右二著の

名を序述するを必要と認め候。

当日小生其任に当り、身体が出頭に差支へなくば、

小生は古来マキと熊野でいひしは全く高野槇なることは

貴下の発見といふことを申し上げんと存居候。右当用のみ 早々敬具

右二書は宮城内御研究所に献納の筈に候。乃ち永く

御参考書となるなり。

小生は御内沙汰を蒙りおるを以て、粘菌標品を献納の筈に

候。目下の処ろ坂口ニ氏専ら植物をとりまはりおり、又写

¹坂「阪」口総一郎。和歌山県師範学校教諭。和歌山県史蹟名勝天然紀念物調査委員、行幸事務委員。

真し居り。縣下諸学校の集品は一先づ中島湊三^三氏宅へ送來の筈なるも、あまり多からず。和歌山中学校などは全く供覧品なき由に候。

小生一週ほど前中島北島二氏と神島へ下検分にゆき

候節、ハルノゲシ^ニの甚大にして（ハルノゲシ^ニが一^ニ尺高さなら

此品は三尺が通常の高さ）葉がハボタンの色にて

きざみ殊に深く、刺^{はり}するどし、又花の

外萼片及び花梗に強き刺^{はり}あり、

【図】

茎を抱ける基底耳がハルノゲシは

【図】 鋭どきも、

この品は 【図】 円く鈍^{にぶ}し、

かやうのもの多く神島の濱辺

に生じあり。扱帰途文里から

みこの濱又高女辺にも生えあるを

見、中島北島二氏に問ふに、今始めて見ると

申され候。帰宅後しらべしに、オニノゲシ^ヤ

と申すものにて、二十五年既に日本へ欧州より渡りありと

分り候。此辺にては二氏も小生も今度（前月二十八日）初めて

見出したるに候。かかるもの貴下当地に居られし中見付かりし

² 田辺中学教諭

³ ノゲシの別称。キク科の越年草。

⁴ オニノゲシ（鬼野芥子）葉には刺状の鋸齒がある。国立環境研究所 侵入生物DBによると1892年（明治25）に東京で確認。熊楠の「二十五年すでに」の言と符合する。

事ありや、伺ひ上げ候。欧米には到る処ろひろがりあるも、当地方には

最新の輸入と見え、町内にはまだ入りこみ居らぬ様に候。以上。